

大祓詞

高天原に神留り坐す 皇親神漏岐 神漏美の命以ちて 八百萬神等を神  
集へに集へ賜ひ 神議りに議り賜ひて 我が皇御孫命は 豊葦原水穗國  
を 安國と平けく知ろし食せと 事依さし奉りき 此く依さし奉りし國  
中に 荒振る神等をば 神問はしに問はし賜ひ 神掃ひに掃ひ賜ひて  
語問ひし磐根 樹根立草の片葉をも語止めて 天の磐座放ち 天の八重

雲を伊頭の千別きに千別きて 天降し依さし奉りき 此く依さし奉りし  
四方の國中と 大倭日高見國を安國と定め奉りて 下つ磐根に宮柱太敷  
き立て 高天原に千木高知りて 皇御孫命の瑞の御殿仕へ奉りて 天の  
御蔭 日の御蔭と隠り坐して 安國と平けく知ろし食さむ國中に成り出  
でむ天の益人等が 過ち犯しけむ種種の罪事は 天つ罪 國つ罪 許許  
太久の罪出でむ 此く出でば 天つ宮事以ちて 天つ金木を本打ち切り  
未打ち断ちて 千座の置座に置き足らはして 天つ菅麻を本刈り断ち  
未刈り切りて 八針に取り辟きて 天つ祝詞の太祝詞事を宣れ

此く宣らば 天つ神は天の磐門を押し披きて 天の八重雲を伊頭の千別き  
に千別きて 聞こし食さむ 國つ神は高山の末 短山の末に上り坐して 高山  
の伊褒理 短山の伊褒理を搔き別けて 聞こし食さむ 此く聞こし食して  
ば 罪と言ふ罪は在らじと 科戸の風の天の八重雲を吹き放つ事の如く  
朝の御霧 夕の御霧を 朝風 夕風の吹き掃ふ事の如く 大津邊に居る  
大船を 舳解き放ち 鱸解き放ちて 大海原に押し放つ事の如く 彼方  
の繁木が本を 焼鎌の敏鎌以ちて 打ち掃ふ事の如く 遺る罪は在らじと  
祓へ給ひ清め給ふ事を 高山の末 短山の末より 佐久那太理に落ち多

岐つ速川の瀬に坐す 瀬織津比賣と言ふ神 大海原に持ち出でなむ 此く  
持ち出で往なば 荒潮の潮の八百道の八潮道の潮の八百會に坐す 速開都  
比賣と言ふ神 持ち加加呑みてむ 此く加加呑みてば 氣吹戸に坐す 氣  
吹戸主と言ふ神 根國 底國に坐す 速佐須良比賣と言ふ神 持ち佐須良ひ失ひてむ 此く  
根國 底國に坐す 速佐須良比賣と言ふ神 持ち佐須良ひ失ひてむ 此く  
佐須良ひ失ひてば 罪と言ふ罪は在らじと 祓へ給ひ 清め給ふ事を  
天つ神 國つ神 八百萬神等共に 聞こし食せと白す